



茨木市立東中学校 生徒指導推進委員会
生徒指導通信13号 令和2年11月13日
文責：生徒指導主事 森山 聡

根気よく、主体的に学ぼう ～自分も周囲の人も大切にしよう～ 自分と向き合い、進路を切り開こう

～頑張れ、踏ん張れ、3年生～

中学1年の時の国語の授業での課題を鮮明に覚えている。

「中学校生活で頑張りたいこと」これを原稿用紙に書きなさい。という、国語の授業だった。なんでそんなどこにでもありそうな授業を何十年もたって覚えているのか、というと、それを書く12歳の森山少年が心躍らせ、その時の自分なりの信念もって書いたからかなと思う。

もちろん、その時にそんな事は思っていない。今考えたら・・・だ。

それこそ、その時は無我夢中だ。

そして、書いた内容は・・・・・・・・

「NBA 選手になる。そのために、この中学校に入学した。だからバスケットボールを頑張って全国制覇する」以上！ え?!それだけ? そう、それだけなんです。

残念ながら、国語的には0点、褒められる事など何もない、間違っている。けど、その時の自分の思いに嘘はない「中学校生活で頑張りたいこと」だった。だから、今も覚えているんだと思う。

本気で物事に向き合える経験。それこそが、君たちの人生の糧になる、絶対に。今、逃げている自分、甘えている自分。そんな自分と向き合って対話する。誰でもなく自分と。

3年生は次の懇談で私学決定。理想なくして夢実現はない。けど、現実だけでも夢実現はない。では、どうする。今自分のやらなければならないことをする、ただそれだけ。きっと全力を尽くした人であれば、決定のその瞬間に「これで良かったんだ」と思える時がくる。その瞬間にはそう思える人は少ないと思うけど、どんな判断であれ僕はその決断を応援したい。

しかし、親や先生のアドバイスは聞いてください、謙虚に。けど、それを頭と心で自分でかみ砕いて、自分のものにして、そして自分の言葉で「〇〇したい!」「〇〇高校にいきたい!」「〇〇を頑張りたい!」・・・
と言える君たちに先生達はエールを送る。

自分と向き合い、自分で決断する。

大丈夫、そこまでの決断であれば、みんな賛同するし、応援する。

今日も今日とて、これで良かったんだ。これが正解。これしかなかったんや。あつてるんやで。自信もっていこう。

～Take it easy～

1年生は安威川ランチへ、2年生は京都 嵐山へ、そして3年生は滋賀へ校外学習へ行きました。プランを練ったり、班行動での注意など事前準備は委員会や班長中心にたっぴりと頭を働かせて、いざ当日。どの学年も良い笑顔がそこにありました。

日常の枠にとらわれない時間を過ごすことで息抜きになった人もいるし、そこでの行動に新たな一面を発見できた人もいます。そんな時間も大切やね。

友達との時間、家族との時間、趣味の時間、ひとりの時間。何も考えず心を空にできる時間も作っていきましょう。ホッとできる時間を。

何はともあれコロナに振り回され例年通りの活動は校外学習でもできなかったけど、だからこそその思い出もできました。



